

更生保護ひろしま70周年記念特別号ご注文書

昭和27年8月に創刊した「更生保護ひろしま」の70年の歩みをたどりながら、広島県内の保護司の思い、地区保護司会や矯正・更生保護施設の現状を紹介し、この国の更生保護の将来を考えようというA4判、144ページの冊子に仕上げました。保護司の方も、そうでない方も、ぜひ、ご一読ください。



令和4(2022)年11月吉日
広島県保護司会連合会
更生保護ひろしま編集委員会
委員長 吉川水貴

(目次)
第1章 保護司アンケートから
第2章 矯正・更生保護施設は今
第3章 バックナンバーで振り返る70年の歩み
第4章 わが地区会自慢
第5章 特別寄稿「保護司～アジアと世界の眼差し」
第6章 あすに向かって(新ホームページ紹介)

1冊1,200円(本体1091円+消費税)

送料は部数によって、370円～600円(税込)がかかります。
受け取り後、冊子代金と合わせお振込ください。

ご注文は各地区会でまとめていただき、FAXにて広島県保護司会連合会事務局へお申し込みください。

FAX 082(502)0201

お名前		注文部数	部
送付先住所	(〒 -)		
お電話	-	-	

広島保護観察所

勤務時間外における緊急連絡先

夜間・休日等に事件関係等で緊急に連絡を取りたい場合は下記に御連絡願います。

・保護観察事件等

・保護司関係

090-8990-3261

080-4554-4661

更生保護ひろしま 第793号

昭和27年8月創刊 毎月1回1日発行 定価35円

編集 「更生保護ひろしま」編集委員会
発行 広島市中区上八丁堀2-31
広島県保護司会連合会
☎(082)221-4496

本誌内すべての内容の無断転載および複製を禁じます。

料金後納
郵便

更生保護 ひろしま

更生保護 ひろしま
70周年記念特別号



題字「ひろしま」と色紙の揮毫は 岸田文雄 第101代内閣総理大臣

第793号

令和5年
1月1日発行

目次

- 新年のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 令和4年度 就労支援研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- (連載開始) わが矯正人生を振り返って～現役矯正職員に伝えたいこと
元横浜刑務所長 亀井史丞氏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 退任保護司 法務大臣感謝状伝達式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 更生保護ひろしま70周年記念特別号刊行のお知らせ &
広島県保護司会連合会ホームページリニューアルのお知らせ・・・・・・・・・・・・・7
- 更生保護ひろしま70周年記念特別号 ご注文書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

広島県保護司会連合会
ホームページリニューアル!

全面刷新!充実したコンテンツ!!
スマホやタブレットでも快適閲覧!!



更生保護ひろしま
70周年記念特別号 刊行!



新春に 寄せて



広島保護観察所長
山田 浩司

新年おめでとうございます。皆様におかれましては、日頃から、更生保護活動に多大な御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えないなか、昨年においてもこれまでと同様に、感染状況の目まぐるしい変化に対応するため、予定されていた行事等を中止又は延期するなど、多くの御心労と御負担をおかけいたしました。皆様の御理解と御協力、そして様々な工夫により、多くの成果をあげることができました。

本年も感染拡大防止を念頭に、誰もが互いに尊重し合い助け合っていく、「誰一人取り残さない」共生社会の実現に向けた取組を進めてまいります。

皆様の引き続きの御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

繋ぐ



広島県保護司会連合会 会長
八崎 則男

新年あけましておめでとうございます。2020年新型コロナウイルスの流行と、2022年ロシアによるウクライナ侵攻によって世界は一変し、以前の価値観では説明のつかない今、先人が更生保護の礎を築き私達に日本一安全、安心で明るい広島県を、昨年発行の機関紙「更生保護ひろしま70周年記念誌」に託されたのだと痛感致しました。各方面から大変な反響を頂いております。

地域の安全、安心の要請に応え、大切な役割を司どっている保護司をはじめとする更生保護関係者との協働体制の強化が一層重要との思いを新たにしています。

本年も皆様の変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。



更生保護法人広島県更生保護協会
理事長 松藤 研介

広島県更生保護施設連盟
会長 平原 正敏
(更生保護法人 呉清明園理事長)

更生保護法人 ウズ広島
理事長 山田 勘一

広島県更生保護女性連盟
会長 山野千佳子

広島県BBS連盟
会長 花之木 憲一

広島県協力雇用主会連絡協議会
会長 牧尾 良二

特定非営利活動法人
広島県就労支援事業者機構
会長 荻田 知英

令和4年度 就労支援研修会

日時：令和4年11月22日
場所：広島グリーンアリーナ



広島保護観察所 豊島浩文次長



広島保護観察所
組谷隆司 統括保護観察官

就労支援の課題を討議 研修会に80人参加

令和4年度就労支援研修会が11月22日、広島市中区の広島グリーンアリーナで開かれ、保護司や協力雇用主、就労支援員ら約80人が参加しました。

主催者を代表して広島保護観察所の豊島浩文次長、広島県保護司会連合会の八崎則男会長、県協力雇用主会連絡協議会の坂元亨副会長があいさつ。続いて県就労支援事業者機構の間所了常務理事の司会でパネルディスカッションを開き、「就労支援の現状と課題」をテーマに意見交換しました。

パネリストを務めた観察所の組谷隆司統括保護観察官、県の中村好宏県民活動課長、広島地検の加本伸一統括捜査官、県就労支援事業者機構の西井一宜事務局長の4人がそれぞれの取り組みを報告。建設業を中心に現在755社ある協力雇用主の企業数や業種をさらに広げ、求人側と求職側のミスマッチを解消していく方策などについて討論し、会場も交えて熱心な質疑応答を繰り広げました。



連載

わが矯正人生を振り返って ～現役矯正職員に伝えたいこと～①序章

元横浜刑務所長
亀井 史 丞

一、天の声

私は、本年4月30日をもって81歳になりました。お陰で、現在も元気に地区社会福祉協議会長として地域福祉の充実に努めています。この度、表題で執筆依頼がありました。「お前には、まだ、やり残しがある」と、天の声が聞こえた気がした。しかし、資料も記憶も乏しくなった大昔のことを、老いぼれが書いても失礼になると思い、天の声の方に、丁重に執筆辞退をお願いした。

ところが「先生の現役時代の研修内容は、私たちの心の糧ですよ!みんな泣きながら聞いていましたよ。先生の幅広いエピソードを通じ、職業人としてどうあるべきかを、現役矯正職員に遺してやってください。特に、受刑者に特許権を取らせた件は、矯正の歴史の中で、後にも先にも、先生が取らせたあの一件だけです。あのご経緯を現役矯正職員が知るだけでも、すごく勉強になりますから」と上手に説得され、結局失礼を顧みず紙面を汚すことになった。

二、生い立ち

私は、下半身不随の重度身体障害者の父のもとに生まれた。当時は、福祉も充実しておらず、戦中・戦後の物資不足で、食べるものもなく、いつ死んでもおかしくない貧しい生活だった。そんな厳しい生活の中でも、父は「人間は、人を幸せにするために、尊い命を授かって、この世に生まれてくるのだから、どんな人とも仲良くし、支えあって生き抜くこと」と、私たちが、人の道を外さないよう、励ましながら、義務教育終了まで大切に育ててくれた。

三、自立

中学が終われば、自立が当然と思っていた私は、担任の先生と相談し、広島市内の製パン工場に就職することにした。大工見習をしていた長兄が、就職祝いにトランクを新調し、餞別として500円をくれた。これが自立の全財産だった。父の餞別は、①朝は、希望をもって起きること。②昼は、努力して生きること。③夜は、感謝して休むこと。という、父流の生活信条だった。今も実行している。

パン屋に就職した初年度の仕事のパターンは、午前4時頃から、自転車でのパンの配達、8時朝食、9時から餡やクリームなどの加工、午後は、集金(空箱の回収・清掃を含む)で、午後5時頃、一日の業務終了だった。

約一年の間に普通自動車の運転免許を取得し、夜間高校受験の準備もした。仕事が、このパターンであれば通学できると思えたので、思い切って受験した。結果は、「サクラ、サク」だった。

決意新たに、仕事と学業両立の生活に入ったが、午前4時から午後時11時頃までの日課は、体力的に限界を感じる厳しいものだった(心の中では、常に、もっと安定した職業に就きたい、と願っていた)。

しかし、夜間高校に行けたことによる利点も多々あった。当時の夜間高校生は、同年代の人ばかりではなく、年上の人生経験豊かな人たちが多くおられ、この人たちと友達になることによって、例えば、私がパンの販売先の拡張に苦慮している、と相談すると、直ちに、「うちの会社の売店を紹介してやる」という話に始まって、各学校・病院・官公庁等の売店に知人・友人がいる、という人たちが現れ、その人たちの紹介で一気に得意先を拡張することができた(この中に、広島刑務所(以下「広刑」という)の売店があり、これが矯正との縁の第一歩だった)。

紹介いただいた全部の売店と契約するのに、おおむね一年強かかったが、会社の受注量と売上は急激に伸びた。これに対応するため、生産と販売体制の増強が行われたことは言うまでもない。外交の機動力と小回りを利かすため、オート三輪と軽三輪車が整備された。

また、社員も増員されたため、外交担当の私は、住み込みから通勤に変更となり、市内全般の販売管理を任されるようになった。順調に売上を伸ばしながら約8か月が経過した昭和35年12月中旬、広刑の売店だけの配達と集金を担当させていた同僚が、11月末まで、毎日の売上を、その日に入金していたのに、12月1日から入金していないことに気付いた。報告がないので理由を聞いたところ、いとも簡潔に「今月から月末締めになったからです」と、答えたので「なぜ、そんな大切なことをすぐ経理に報告しないか」と注意したが、嘘を言っているとは思えなかったので、月末まで待つことにした。

ところが、これが間違いの元だった。当人は、官公庁の年末御用納め前日に、配達に出たのを最後に帰らなくなった。すぐ先方に赴き、事実を確認した。先方は、従来どおり毎日支払っている、とのことだった。

同僚を信頼し、確認を怠った自分を悔やんだ。それでも、同僚を犯罪者にはしたくなかったので、当時売店を管理していた用度課の方に「本人を犯罪者にしたくないので、早く連れ戻し、社長に謝らせたい」と相談したところ、「貴方が協力してくれば、家出人捜索として、立ち回りそうな場所だけでも捜索してもらいましょうか」ということになり、3日間、師走の夜の街を、パトカーに同乗させてもらい、くまなく捜索した。結局、足取りはつかめず、捜索は打ち切った。経理は、社長と相談の上、会社の欠損として処理し、告訴もしないことにした。

これが、社会人になって初めて犯した失態である。入金がないと気づいた時点で、先方に確認していれば、会社の損失も少なく、同僚を失うこともなかった、と自分の未熟さを悔やみ、反省した。

しかし、この時の事故処理は振り返ってみると、人情味あふれる適切なものであって、その後の私の人生に大きく影響することになるとは当時、夢にも思わなかった。

四、矯正職員への第一歩

4か月後の昭和36年4月中旬、広刑の用度課長さんから呼び出しがあった。また、何か失敗したか、と恐る恐る伺った。「実は、広島拘置所から、所長車の運転手を探しているが、なかなか適任者がいない、いい人を紹介してほしいと頼まれている。私たちは、貴方の人柄にほれている。私たちの仲間になってください。是非、広拘に行ってほしい」という、ありがたい話だった。

当時の広島市内は、まだ、原爆スラム街が至る所に残っており、生活は食うや食わずの厳しいもので、私のように中卒程度の学歴で国の機関に就職できるなど、夢にも思っていなかった。それが現実のものとなろうとしているのである。断る理由もなく、すぐ社長に相談した。2か月引継ぎの期間をとってくれ、との条件で了解を得た。

履歴書の提出、面接試験等で2か月は、あっという間にたち、同年6月28日「広島拘置所総務部用度課に採用する」という辞令を頂いた。まだ、国家公務員ではなく、広島拘置所の雇人であるが、私にとっては、一番身分の安定する公務員への道が開けたのである。

その上、ありがたいことに、直属の用度課長さんから、「君は、刑務官になってもらうために、うちに来てもらったのだから」と言われ、毎日、受験勉強用のペーパーを作ってお指導いただいた。そのお陰で、その年の刑務官採用試験に合格し、翌昭和37年3月に最短で刑務官を拝命することができた。

(⇒次号「第一章 広島拘置所規律素乱事件」へ続く)

(令和3年11月刑政132巻11号にて掲載)



かめいふみひろ

亀井史丞 氏プロフィール

昭和37年3月	広島拘置所管理部保安課看守
平成4年4月	佐世保刑務所長
平成6年4月	横浜刑務所所長
平成8年4月	福岡矯正管区第二部長
平成10年4月	横浜刑務所長
平成12年4月	退職

退任保護司 法務大臣感謝状伝達式



「卒業」の6人に法務大臣から感謝状

満齢を迎え、めでたく退任される6人の保護司の方への法務大臣感謝状の伝達式が11月30日、広島市中区の広島保護観察所で開かれました。

6人はそれぞれ、観察所の山田浩司所長と県保護司会連合会の八崎則男会長から、齋藤健法務大臣の感謝状と記念品を受け取り、全員で記念撮影した後、テーブルを囲んで思い出を語り合いました。

最も長い人で26年にわたり保護司を務めてくれました。6人は「多くの人と関わってきた経験を保護司としても生かすことができた」「再犯を防げなかったケースが心残り」「更生には対象者の家庭の状況が何より大切だと痛感した」などと話していました。

退任保護司（満齢）

佐伯	穰	（中）
井口	宣貞	（東広島）
高藤	忠之	（東広島）
東	道子	（呉）
石橋	克己	（呉）
北村	博之	（福山）
（敬称略）		

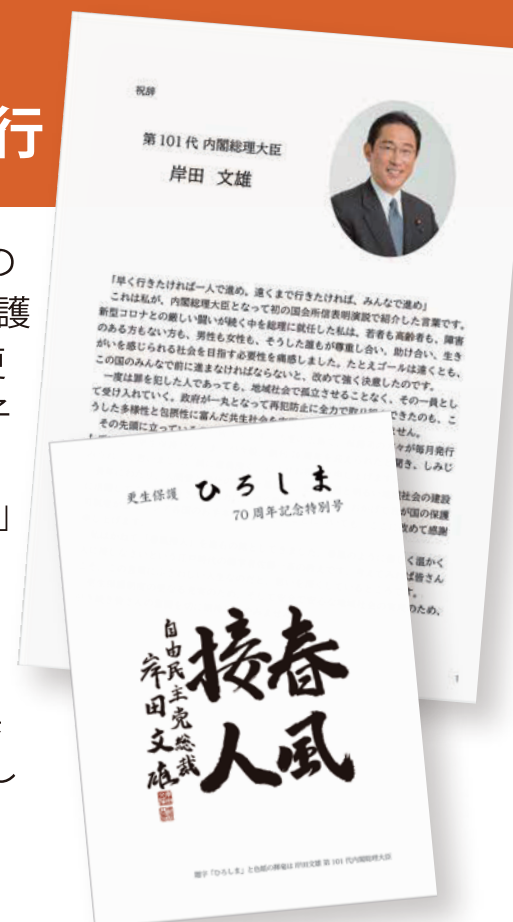


更生保護ひろしま 70周年記念特別号を刊行

昭和27年8月に創刊した「更生保護ひろしま」の70年の歩みをたどりながら、広島県内の保護司の思い、地区保護司会や矯正・更生保護施設の現状を紹介し、この国の更生保護の将来を考えようというA4判、144ページの冊子に仕上げました。

表紙には岸田文雄総理大臣が揮毫された「春風接人」の色紙をありがたく頂戴することができました。全144ページ、6章にわたる本文では、広島県内の保護司アンケートや矯正・更生保護施設ルポ、「更生保護ひろしま」バックナンバーの紹介、わが地区会自慢、そして私ども県保連の新ホームページ案内など、盛りだくさんの内容としています。ぜひ、ご一読ください。

ご注文詳細は8ページ（裏表紙）に記載しております。



全面
刷新

広島県保護司会連合会の ホームページが新しくなりました

保護司の活動を広く伝える情報発信の場としてホームページをリニューアルしました。広島県内の保護司活動に関するコミュニケーションの場としてぜひご活用ください。

ホームページは
こちらから



<https://www.hiroshima-kenhoren.jp>